様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年６月２７日現在

機関番号：３２６０１
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：20500679
研究課題名（和文）日本近代庶民住生活像・インテリア像の形成と英国田園都市住宅思想の影響
研究課題名（英文）Examination of the historical and social formation of model images of the common people’s modern interior space, and of the impact of the English Garden Suburb ideology
研究代表者
黒石　いずみ　（KUROISHI IZUMI）
青山学院大学・総合文化政策学部・教授
研究者番号：70341881

研究成果の概要（和文）：
英国田園都市住宅における、20 世紀初頭にかけての社会状況と建築空間デザイン理念、郷土主義・社会主義的視点からの近代化批判、女性や家族生活への啓蒙的提案、庶民生活の合理化等の社会背景の影響と空間表現を考察し、その日本での継承過程を検証した。特にドイツやアメリカの住生活思想との融合、「内側から住まいを考える」視点の変容と現代的意味を論考した。インテリアにおける生活様式の表象理論と研究手法の理解を活用し国際的研究交流を行った。

研究成果の概要（英文）：
This study examines how the social conditions, contemporary architectural design ideas, and social ideas; criticisms on the modern capitalizations from the home-land ideology and socialism, feminism ideals about the women’s human right and family life, and the political intentions in the movement of frugal rationalization of people’s lifestyle, were represented in the ideas and designs of people’s small scale houses of English Garden Suburb movement, and how these representational mechanisms were transmitted in the modernization of Japanese house designs until the World War II. Especially, it analyses how these ideas were unified with those of German and American modern lifestyle and space, and how the ideas of “Thinking house designs from the interior” were developed in Japan. Based on above examinations of the representations of lifestyle and social factors in the interior of modern Japanese domestic space, the author presented plural numbers of papers at international conferences.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	3,700,000	1,110,000	4,810,000

研究分野：総合領域
科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般
キーワード：近代庶民住宅理念と社会背景、英国田園都市思想、インテリアデザイン、消費文化、メディアの影響、フェミニズム運動、生活改善事業、シンプルライフ

１．研究開始当初の背景
研究開始当初の背景は、それまでに蓄積した視点と持続的問題意識、さらに考え方の限界に対する葛藤と偶然的な気付き、推測とが相互に関わる中で、新しい視点に接近する過程でもあった。それらの要素を次に列挙する。
（1）研究代表者の黒石は、1993 年から今和次郎の業績を手掛かりに、日本近代期の農村計画と民家論、生活学、都市風俗、住居論、デザイン史論の相互の関係とその社会背景、特に国際的コンテクストにおける位置付けについて考察を行ってきた。しかしこれらの領域は、従来それぞれ別個に研究されていたので、理論的な共通基盤となる問題意識や背景を見出す事が困難であった。

（2）同時期に行っていた東北地方における近代期の住生活と農村地域開発に関する調査研究の中で、上記の諸領域に一貫した理論的影響力を持った一群の経済学者や哲学者、社会学者を見出した。その背景を検討し、英国田園都市運動の理念やデザイン論の思想的影響が、予想を超えて日本でも多くのデザイナーや研究者、様々な領域の社会事業に対して包摂的な理論背景を与えた事、日本の人々が同時代の欧米の事例を直接見学し参考とした事を知った。

（3）だがこれらの一群の経済学者や哲学者、社会学者の業績や当時の都市と農村の生活に関する研究は、各領域でなされてはいたが、それらが日本近代期の生活環境の変化に、どう融合的な影響力を与えたかについては断片的な資料しか見出すことができず、特に都市や地域計画、建築の領域における総合的な関係や成果を見出すことは難しかった。既往研究でも、その住宅デザインにおける具体的影響については、ラスキンとアーツアンドクラフツを除いては、資料がほとんど不在だった。

（4）また田園都市運動は、日本の近代住宅地計画史の領域で大きな関心を集め既往研究も豊富だったが、その計画手法と都市計画や建築物の形態研究を対象とした研究が主であり、デザインの社会的意味とその背景に関する検討は不足しているように思われた。

（5）一方、日本近代期において住宅デザインへの関心がどのような社会背景から形成されたか、特に庶民の生活の質や精神状況に直接関連するインテリア空間のデザインや価値観がどのような言説と事例によって歴史的に発達したのかについても、インテリア研究と建築理論や歴史の領域が分かれていたために、美術史的な議論は存在したが、建築空間に関連してなされるものは不足していた。

（6）そこで、これらの領域の障壁を超えてデザインと社会背景の関係を新たな視点から分析する理論領域として、イギリスを中心に展開したカルチャラルスタディーの理論を、研究代表の黒石は 2005 年から学び、その適用可能性を検討した。その中でロンドン大学のエイドリアン・フォーティ、イアン・ボーデン、バーバラ・ペナ―らの研究が非常に近接した関心と領域を持っている事を知り、2007 年の在外研究をきっかけに、密接に研究交流を始めた。そして、フェミニズム運動、消費経済やメディア、そして家政学の庶民住宅デザインへの影響、公共住宅におけるインテリアデザインの言説の傾向等の視点を、住宅デザインと社会背景との関係として理解する研究手法を獲得した。

（7）1998 年からは、日本近代住宅・地域計画の歴史的研究で定評のある内田青蔵や藤谷陽悦と研究交流を行い、日本近代住宅史の基礎的知見を得て、本研究の現代の住宅論・デザイン研究における意味を考察した。住宅への近年の社会的関心は、その文化的社会的基盤と同時にその人間らしい理念形成を求めている。前述した歴史的問題は、それが「人間らしい生活空間」を求める問題意識を提示している点で普遍的なものであり、現代の状況に対して新たな住宅論の視点を開く本質的な意味を持っていると思われた。このような背景から本研究課題を提案させていただいた。

２．研究の目的
住宅や生活デザインを形態的な次元のみではなく、その形態創造に社会背景が果たした役割、また逆にそのデザインが社会に与えた影響を考察することで、現在大きな関心を集めている住空間デザインの、より人々の生活実態と価値観に基づいた理解を進める事を大きな意味で研究の目的としている。そのために本研究の対象としては、19 世紀末から 20 世紀初頭の日本の庶民住宅におけるインテリアデザインに、主に英国田園都市運動で展開され、後の近代生活空間デザインの基準となった理念や価値観がどのように影響を与え、異なった文化社会環境でどのように変容展開したかという問題を取り上げる。

研究の目的は次の三つで構成された。
（1）19 世紀後半に英国やドイツなどにおいて提案された近代的庶民住宅空間理念が、どのような社会状況から生まれたかを研究する。特に田園都市住宅運動でどのような思想

に基づいて「都市と農村の結婚」「健康な住宅」「コミュニティとしての住環境」「内側から住まいを考える」などの視点や、「シンプルライフ」という、近代にも継承される生活デザイン理念が提案されたのか、それは実際に作られた住宅空間デザインとどのような論理で関係づけられているのか、住宅の内部空間に対する言説はどのような社会的背景を持って展開されたのかを、英国やドイツでの調査に基づいて、歴史的研究と実例デザイン分析の両面から検討する。

（2）英国田園都市思想を日本の近代期の建築デザインや生活空間研究の領域に導入したとされる研究者やデザイナーの事績を調査し、同時期の他の欧米諸国からの影響と共に、その研究者達の日本での業績との比較を行い、それがどう日本において変容したのかを検討する。その際に、従来田園都市運動の日本での展開事例として扱われなかった社会学や家政学での言説活動、今和次郎等の民家研究と住宅研究等に見られる都市と農村の生活環境の近代化とその問題に関する言説、福祉事業であるセツルメントにおける住生活空間創造の事例、また都市と農村の地域計画事業などとの関係も念頭において検討する。そして近代日本において社会文化理念が空間や建築、都市空間などにいかに反映され、デザインがどう社会的言説形成に利用されたかを歴史的に分析する。

（3）カルチャラルスタディーの理論的総合性は、領域の区分を超えて、生活空間をその歴史的意味、心理的効果、社会背景、経済的問題、デザインの特徴など多様な視点から検討することを目的としているが、具体的な分析事例はまだ十分ではない。また社会学的な視点で建築空間の分析を行う事例も少ない。ジェンダースタディやメディア論的分析も同様である。また、生活者の多様な視点を基準にデザイン分析を行う事も、形態分析に比較して客観的な成果を上げることは困難であり、推測に基づく記述にとどまるという理論的限界を伴う。またインテリアデザインの分野は建築論の分野に比して、前例となる理論研究が少なく、特に庶民の住空間に関する歴史的参考資料は不足している。これらの問題を前提として、庶民の住空間・インテリアデザインを、空間の社会文化的背景や思想的意味研究の対象として分析する理論的手法を開拓することは、本研究の重要な目的である。またその研究を国際的交流によって、より広い普遍的な問題意識へと導くことも目的とされる。

３．研究の方法

主たる研究方法の第一は、英国の田園都市運動や日本の関連する近代住宅やインテリアデザイン関係のアーカイブ、図書館、大学資料館や美術館等で第一次歴史資料収集を行い、現地見学により住宅や地域計画、インテリアや生活環境の視覚的資料を収集することである。また人的ネットワークや関連する研究対象となる人々の業績の調査、社会的環境に関する研究のためにも、同様に各地の資料館等を訪問し資料の調査収集を行う。

第二には、建築やインテリアデザインの既往研究のみならず、社会学、民俗学、カルチャラルスタディー、家政学、デザイン史などの関連領域の研究も調査対象とし、問題の理論的な枠組みを再構築する。そして国際学会に論考を発表する事で研究交流を広げる。

第三に、近代の消費文化やメディア文化と生活空間の関連については、学術的論考や既往研究のみでは把握が困難なので、新聞のみならず映像や雑誌などの多様な資料を取り入れる。

以上の多様な資料と視点を総合化するために、個別事例に則した具体的資料とその客観的論考の記述、推測を伴う想像力に基づく記述を合せて取り入れ、空間的な視点を基盤として論考する。

４．研究成果

本研究企画における成果概要は次のとおりである。

第一に、日本で不足している英国田園都市運動における住宅やインテリアに関する第一次資料を広範に収集したことである。レッチワース、ウェルウィン、ハムステッド地域におけるそのデザイン事例資料と共に、アーカイブ資料のうち近代住宅イメージ形成にかかわる言説やデザイン思想の歴史的展開を示す資料、その代表的建築家であるレイモンド・アンウィン、バリー・パーカーの住宅デザイン思想の形成過程と変化に関するＲＩＢＡなどにおける資料である。また彼らの環境と住宅の関係に関する理念の基盤となったファビアン協会やジョン・ラスキンの理念と作品に関するブリティッシュ・ライブラリーにおける資料、パトリック・ゲデスの環境建築思想とその米国の建築界に与えた影響に関するエジンバラ図書館の資料を収集した。

第二に、アンウィン以前或いは同時期の代表的英国住宅作家達の思想とその事例に関する現地調査、ハムステッドにおける住宅とインテリアデザインの事例調査、ドイツの田園

都市運動の住宅事例に関する現地調査、特にアンウィンの影響を受けたエルンスト・メイのフランクフルト田園都市住宅とそのインテリア事例の現地調査を行って資料を収集し、その作品や空間を通した理念と周辺環境や社会状況の理解を進めた。

第三に、英国田園都市運動の社会背景としてフェミニズム運動や農村の生活や住宅に関する資料をロンドン大学社会学研究所において収集した。そして 19 世紀末から 20 世紀初頭における英国住宅デザインの社会潮流に関する資料として Studio, Builder, The House などの雑誌資料の住宅論に関する資料をロンドン芸術大学やＲＩＢＡにおいて収集した。

第四に、英国田園都市運動のデザインを日本に紹介した日本人の研究者や建築家、生江孝之、大沢三之助、佐藤功一、武田五一等の事績に関する英国での資料を各地のアーカイブ、大学図書館、日本領事館等で調査した。残念ながらその資料は殆ど見出す事が出来なかった。

第五に、日本国内における 20 世紀初頭のインテリア産業やインテリア思想に関する建築家、家政学研究者、教育者、工芸デザイナーなどによる言説や文献資料を収集し、既往研究におけるその蓄積を理解すると共に、整理体系化してその社会背景との関連を歴史的に考察した。そして家具製造企業に関する文献を収集し、インテリアデザインと家具デザイン、工芸デザインの関係とその日本近代産業史における位置付けや建築デザイン史との関係についても考察した。

第六に、20 世紀初頭の日本における庶民住宅の近代的インテリアのモデルイメージ形成にあずかった代表的な小規模近代住宅事例の現地調査を行い、実際の空間とデザインの知識習得につとめると同時に、その生活像とインテリアの関係、周囲の社会環境との関係を考察した。

第七に、近代庶民住宅空間形成に大きな影響を持ったとされるデパートを中心とした消費経済文化の媒体であるメディアの言説、他方で生活改善事業における倹約と健康、生活合理化を主眼とした生活空間デザインの言説と実例に関する資料を、代表的な婦人雑誌、新聞、家政学教科書、生活改善事業における出版物などから収集し、その整理を行うと同時に既往研究を手掛かりに考察した。またセツルメント事業等の福祉施設における近代的インテリアの啓蒙的な効果に関する資料収集、日本と英国、米国における現地見学を行った。

第八に、上記の調査資料の考察を元にして国際デザイン史学会、国際建築史学会等で英国田園都市思想の日本における影響と庶民住宅像の形成過程に関する論文発表を行った。日本国内においては、インテリア学会と建築学会インテリア研究部会に協力し、インテリア資料集成の執筆委員の一人として研究会に多数参加した。インテリア理論の教育と資料体系の構成に関して議論を行うと共に、現代的な事例分析とインテリア近代史の概要を執筆した。また国立民族学博物館での生活改善事業に関する研究グループに所属して、近代の消費文化の浸透と生活改善事業の政治的、社会的関係、またその住空間への影響に関する議論を行い、研究論文にまとめた。国際的なインテリア研究雑誌に、生活改善思想とインテリアイメージ形成に関する論考を発表した。

第九に、まだ途中ではあるが上記の収集資料を体系化し整理を行い、ウェブにそのインデックスと公開する準備を進めている。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計４件）

①Izumi Kuroishi, Visual Examinations of Interior Space in Movements to Modernize Housing in Japan c. 1920–40, *Interior*, Berg, v.2, 2011　pp. 95-123　査読あり

②Izumi Kuroishi, Architecture for/from the society, Nexus Network Journal : Architecture and Mathematics 、＜ Vol. 10,1 〉、 2009 pp201-215　査読あり

③黒石いずみ、考現学の都市・都市の考現学、『美術フォーラム』、18, 2008　pp.101-106 査読なし

④黒石いずみ、都市と田園の二重奏を生きる―今和次郎の都市論、『AHAUS』, 6, 2008, pp.29-35 査読なし

〔学会発表〕（計　11 件）

①黒石いずみ、EAAC 2011, Materiality and Spatiality in the construction of the identity in Tokyo, 2011. 5.13, Singapore

② 黒 石 い ず み 、 AAS/ICAS 2011,Eluding

barriers to make an identity in the urban space of Tokyo, 2011, 4. 3, Hawaii

③黒石いずみ、Utopia from the bottom up, IASTE Working paper series, 2010, 2010.12.16, Beirut

④黒石いずみ、Cultural reframing of the works by Jiro Harada, The lessons of Japanese Architecture, ISAIA, 2010, 2010.11.12, Kitakyushu

⑤黒石いずみ、The relationship between the ideas of Design and Craft in the 1920's Japan, ICDHS, 2010, 2010.9.22, Brussels

⑥黒石いずみ、Shadow and Domestic Space: Japanese Early Documentation movies and their space, Art and Performance Conference, National Singapore University, 2010, 2010.2.22, Singapore

⑦黒石いずみ、Significance of the *Praise of Shadow* in understanding urban tactility, IFOU 2009, 2009. 11.27, Delft

⑧黒石いずみ、The idea of Traditional Community in constructing utopian settlements in the 1920's Japan, IASTE 2008, 2008.12.13, Oxford

⑨黒石いずみ、Wajiro Kon's ideas of architectural history from the 1920's to the 1940's in Japan, ICDHS, 2008, 2008.10.25, Osaka

⑩黒石いずみ、Architectural realizations of the ideas of Settlement in Japan, Art and Settlement International Meeting, 2008, 2008.9.23, Leiden

⑪黒石いずみ、Configurations and Transformations of Urbanite Self in the 1920's Tokyo Kogengaku, ISA-RC21, 2008, 2008.6.15, Tokyo

〔図書〕（計 9 件）

①黒石いずみ他、『インテリア資料集成』丸善、日本建築学会編、2011 年　pp.92-97, 140-144,146-149, 151-156,158-159

②黒石いずみ他、『日本住宅文献復刻』、柏書房、2011 年 pp.475-503

③内田青蔵『日本住宅文献復刻 山田醇』柏書房、2011 年　pp.771-793

④藤谷陽悦、『日本住宅文献復刻.佐野利器』、柏書房、2011 年, pp289-312

⑤藤谷陽悦、『日本住宅文献復刻.朝日住宅図案集』、柏書房、2011 年, pp543-571

⑥黒石いずみ他、『20 世紀の日本における生活習慣と物質文化の近代化／西洋化--国民生活に対する「生活改善運動」の具体的影響、および西洋化運動における政府の役割』、アンヌ・ゴッソ編、大阪民俗博物館研究、2011 年刊行予定

⑦黒石いずみ他、『芸術と福祉』、藤田治彦編、大阪大学出版会、2009 年 pp.174-204

⑧黒石いずみ他、『建築理論事典』、前田他編、丸善、2008 年　pp.150-151

⑨黒石いずみ他、『Sensing Cities』、青山学院大学総合文化政策学部、2008 年 pp37-40, 86-88

６．研究組織

(1)研究代表者

黒石 いずみ（Kuroishi Izumi）
青山学院大学・総合文化政策学部・教授
研究者番号：70341881

(3)連携研究者

内田　青蔵（Uchida Seizo）
神奈川大学・理工学部・教授
研究者番号：30277686

藤谷　陽悦(Fujiya Yoetsu)
日本大学・生産工学部・教授
研究者番号：60120549